



2022年3月発行

三重県 子ども・福祉部 少子化対策課

TEL 059-224-2268 FAX 059-224-2270

e-mail shoshika@pref.mie.lg.jp



職場環境づくりに
取り組む

魅力ある 保育所の取組



三重県 子ども・福祉部 少子化対策課





職場環境づくりに
取り組む



魅力ある 保育所の取組

保育所は、社会機能の維持のために重要な役割を担っており、保育に対するニーズと関心が高まっています。そのような中、三重県では保育士の確保が大きな課題となっており、保育現場では子どもたちの安全確保に加え、保育の「質」の向上に向けた取り組みが期待されています。

しかしながら、保育現場からは「休暇が取りづらい」「研修に参加する時間がない」などの声が聞かれ、ICTの活用などにより、事務作業の軽減や業務の効率化など「働きやすい職場環境づくり」に取り組み、子どもたちのために保育を充実させていくことが必要です。

そこで、今年度行いました「令和時代の働きやすい保育所運営定着事業」にかかる魅力ある保育所実態把握調査から、創意工夫等により魅力ある保育を行っている保育所の取組を紹介しますので「働きやすい職場環境づくり」を進める参考としていただければ幸いです。

「働きやすい職場環境づくり」の5つの視点

- 1 業務負担軽減の取組について
 - ・ ICT機器の導入・活用による業務負担の軽減
 - ・ ICT機器の活用以外での業務負担軽減に向けた創意工夫
- 2 コミュニケーション、保育目標の浸透の取組について
 - ・ 職員同士の円滑なコミュニケーション
 - ・ 保育士の資質向上・人材育成に向けた多様な研修機会
- 3 労働状況について
 - ・ 時間外勤務時間の削減や有給休暇の取得に向けた取組
 - ・ 妊娠・出産・子育て等について配慮した取組や復職に向けた支援
- 4 地域連携の取組について
 - ・ 職場体験やインターンシップの受入
 - ・ 地域の方や保護者との交流・協創
- 5 保育所施設の運営について
 - ・ 自園についての積極的な情報公開
 - ・ 0～2歳児の積極的な受入の実施



* 東員町立しろやま保育園

P03-04

* 社会福祉法人四季の里 どんぐり保育園

P05-06

* 松阪市立三郷保育園

P07-08

* 社会福祉法人清泉福祉会 清泉愛育園

P09-10

* 伊勢市立五峰保育園

P11-12

* 社会福祉法人むげんのかのうせい えがお志摩保育園

P13-14

東員町立

しろやま保育園

SHIROYAMAHOIKUEN

員弁郡東員町城山1-44

園長 松野 美加

定員数 86名

職員数 17名(保育士 14名)

町によるICTシステム導入

東員町としてICTシステム導入を推進しており、シフト管理や職員同士の連絡などに使用しています。特に保護者への緊急連絡に活用している「まちこみメール」の導入は、各家庭への電話連絡が一斉メールで配信でき、大幅な業務負担軽減につながっています。あわせて、連絡網等の作成の必要がなくなり、個人情報の観点からも負担が減っています。また、会議などがオンラインで可能になり、移動時間の短縮に加えて、対面であれば中止せざるを得ない会議も実施することができ町内の保育園等との情報共有の機会が維持できています。町の公立保育園6施設は幼保一体型の施設で、ICTシステムの活用だけでなく、研修制度の確立、代替え保育士の確保など町としても職員の働き方の改善に取り組んでおり、連携を取りながらよりよい環境づくりを進めています。



【ICTシステムで効率化】

仕事の分掌化を推進、偏らない仕事負担

「担当するクラスによって仕事の軽重があるため、誰かが負担を背負うことがないように仕事の分掌化に取り組んでいます」と松野園長。園内では食育担当や行事・イベントの企画担当、園外では町の研修委員や情報推進委員など日常の保育業務と切り離しやすい担当や係について、事務負担が比較的小さいクラスの保育士が担当するなどして、業務の平準化に努めています。担当や係は年度初めの職員会議で決めています。職員が立候補して自主的に担っています。クラス担当が年度ごとに替わるため職員同士にお互いさまの気持ちがあることや、様々な役割を担当することで学び成長できる機会につながっています。

地域の方の力を積極的に活用、職員の負担軽減に

今まで園の出し物にかかる企画、制作物や装飾、実演までを職員が行っていたため、業務負担が大きくなり、残業等につながっていたことが課題となっていました。町も職員の負担軽減に向けた検討を進めていたこともあり、子育て支援センターや地域で活動している人に声をかけて、今では絵本の読み聞かせや手品、人形劇、影絵などの出し物の一部をお願いしています。

誕生会、運動会、発表会などの園のイベントには、城山地区の3つのシニアの会に声をかけています。年間計画を渡しているため、毎年楽しみに参加してくれている人もいます。発表会では、園児の親や祖父母が集まる当日以外の発表会前後の日にシニアの会の方のみを招いた発表会を開催したり、運動会では園児と一緒に玉入れに参加してもらったりするなど、園児にとって地域のお年寄りと触れ合える大切な機会となっています。



【地域の朗読会の方が紙芝居の読み聞かせ】



【地域のフラダンス教室の方と一緒にフラダンス！】



【地域の方とクリスマス会！】

できる限り職員室でコミュニケーションをとる機会を

月の予定を黒板に一覧化し、手伝いが必要な内容と日時を記載することで、お互いに助け合える環境づくりを行っています。コロナ禍で難しいところもありますが、保育の時間以外ではできる限り職員室に集まるようにして、中堅職員が率先して園児の様子などたわいもない話をしながら、ちょっとした相談や困りごとを話しやすい環境づくりに努めています。また月に1回の有給取得を職員に周知しているため、可能な限り取得するようになっています。



【黒板に予定を一覧化】

地域のボランティアの方が支えに



【地域の方と園庭のお手入れ】

月に2回、地域のボランティアの方に、庭園の草抜きや剪定、落ち葉拾いなどをお願いしています。広い庭園・駐車場がきれいに整備されているのは地域の方の助けがあってこそです。

社会福祉法人四季の里 どんぐり保育園

DONGURIHOIKUEN

四日市市野田二丁目8番3号

園長 田尻 幹子

定員数 110名

職員数 27名(保育士 22名)

ICTシステムの導入による効率化

開園当時からICTシステムを導入、業務の効率化につなげています。特に、年間計画、月案、週案、日案の作成などの事務作業において、大幅な時間短縮につながっています。バーコードを使用する登降園管理では、園児の登降園管理の手間が軽減し、また登降園の時間から延長料金の算出が可能で、感染症対策の面からも同室にいた園児や職員が分かることなどが負担軽減となっています。また、市への報告事項も、ICTシステムで保存しているデータを印刷するだけで対応できるため、報告書類を別途作成する必要がなくなりました。さらに、データとして蓄積されることで、情報共有が円滑になり、振り返りの機会が持てるようになりました。クラスごとにパソコンを1台設置しているので、各クラスでの会議記録やクラス便りの作成、園児情報の記録などをすぐに入力できるようにしています。



【ICTシステムで効率化】

一人で負荷を抱えない職員体制

「保育ニーズが多様化するなかで、経験値が高い職員がフォローしたり、フリーの職員を充足したり、職員が一人で抱え込むことがないようにサポートできる環境を整えています」と田尻園長。特にコロナ禍では園児の体調管理や消毒など、職員がいつも以上に気を張る場面が多いため、職員がリセットできる環境づくりに心をくばっており、例えば4・5歳児のクラスの保育士の配置基準で1人とされているところに2人配置するなどの体制を整えています。

また、同園は開園10年と新しい園のため、他の保育園での保育経験がある職員が多く在籍していることも強みと考えています。それぞれの経験値や保育観を擦り合わせながら、より良い保育が提供できるように心がけています。

日頃のコミュニケーション+定期的な面談機会の設定

ICTのメリットも活かしながら、日ごろの声掛けやコミュニケーションの機会を大切にしています。また、職員との面談を7月と12月、また3月頃(年度末)に行って、定期的に話す機会を設定しています。面談は、園長と主任が対応、日頃の保育のなかで、子どもの育ちに対する考え方や保護者対応等への相談が多く、職員の気持ちに寄り添った対応を心がけています。



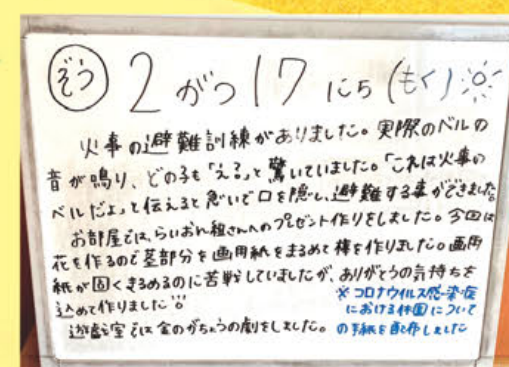
【面談の様子】

法人の特性を生かした交流機会

社会福祉法人四季の里は、介護老人保健施設や障がい者支援施設など複数の施設を運営しています。コロナ禍で休止していますが、秋祭りなど法人全体のイベントでは、年長組が出し物の発表をしたりしています。

また、月に1回高齢者施設を訪問し、入所者のお年寄りとの交流機会を持っています。入所者にとっても孫が遊びに来てくれたように嬉しい機会となっていますが、これから社会に出ていく園児にとっても、幼い頃から、お年寄りや障がいを持つ方と触れ合う機会を通じて、様々な人と壁をつくることなく接することができるあたたかい人になってほしいとの思いから、交流機会を継続していきたいと考えています。また、園児だけでなく、子どもを育てる立場の保育士にとっても、心の豊かさを育む機会にしたいと考え、大切な機会と捉えています。

情報共有にホワイトボードも活用



保護者に伝えることや職員同士の情報共有にホワイトボードも活用しています。ICT、ホワイトボード、口頭、それぞれの特長を生かして情報の共有に努めています。

松阪市立 三郷保育園

MISATOHOIKUEN

松阪市若葉町163-26

園長 藤田 千菊

定員数 130名

職員数 27名(保育士 22名)

市によるICTシステム導入で 業務負担軽減に

平成31年1月から松阪市が市内の公立保育園を対象にICTシステムを導入、園内の職員数にあわせてタブレットが配布されており、クラスに1台と役職者等に割り当てられています。ICTシステムは、現在は主に園と松阪市間での活用となっています。特に指導案等の作成時間の削減や円滑な情報共有が可能になりました。また、月末等に書類作成が多いため、職員同士でタブレットの使用が重なることがあります。そのために皆が使えるように限られた時間での作成を目指すなど時間管理の意識が高まったことも効果といえます。

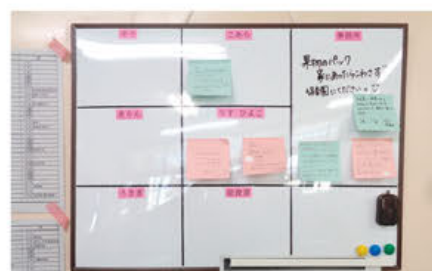


【ICTシステムによる指導案・日誌作成】



風通しの良い園づくり

「風通しの良い園であることを目指して、クラスの様子が見え、どこかに負担が偏ることがないように心がけています」と藤田園長。職員からの相談は後回しにせず、「助けてほしい」「相談に乗ってほしい」と言いやすい環境づくりに配慮しています。また、ホワイトボードを活用し、クラスごとに「助けてほしい」ことをポストイットで貼って見える化しています。職員が毎昼時間に手にとるタブレットの置き場所のすぐ上に設置することで、職員が必ず見るようにすることで助け合えるようにしています。



【助けてほしいことをホワイトボードで共有】



【ホワイトボードは必ず目にする場所に設置】

大道具や持ち物などは 公立保育園で貸し合うことで 負担軽減に

運動会やお楽しみ会などで使用する大道具や衣装を毎回作成するのは職員の負担でもあり、保育以外の時間に対応する必要があることから残業にもつながっていました。そのため、質を下げずに負担を軽くして作成することができる方法を話し合い検討しています。また、松阪市の公立保育園では、大道具や衣装、また太鼓などの楽器について、貸し借りができる仕組みを作り始めています。具体的には、市のデータベースに、各保育園が保有するものを写真とともにアップすることで、各保育園が持つ資源を共有しており、それを見ながら代替できるものを互いに貸し借りできる仕組みです。作成時間が軽減されることにより残業時間の削減、また作成物や楽器等の保管場所の確保の面においても、職員の負担軽減につながっています。



【大道具や衣装を共有】

研修機会により保育士の質向上

月に1回設定している研修機会に加えて、別途月に1回設定している職員会議の後にも研修を行うことが多くあります。近年はコロナ禍で園外研修の機会が大きく減ったことから、その分まで園内で意識や知識を深めていく必要があると考えています。研修内容は、園長や副園長、主任等で相談して決めています。特に人権について学び合い、一人ひとりを大切にしたい保育に取り組んでいます。



【園内研修会】

育休中の職員が園に立ち寄りに



【育休中の職員が顔をみせに】

月に一回可能な限り園に立ち寄ってもらい顔をあわせる機会をつくっています。日頃からつながりを持つことで復職についての相談もしやすくなり、復職時の壁が低くなると考えています。



社会福祉法人 清泉福祉会 清泉愛育園

SEISENAI IKUEN

津市新町1丁目8番13号

園長 安藤 智子

定員数 90名

職員数 40名(保育士 28名)



あたたかい言葉がけと「褒める会」などで、 職員の心のサポート

「ICTの導入など積極的に働きやすい環境づくりに取り組んでいるけれど一番大切なのは“人との関わり”だと思います。いかに心のサポートをしていくかが大切」と安藤園長。1年目や2年目の職員は園長に話しかけづらいくもしれないので、日ごろから園長から「体調はどう?」「ありがとうね」と声をかけ、相談ごとにも笑顔で対応することを心掛けています。「園長は何ごとにもオープンなんですよ!」と職員が話すように、園長の親しみやすさが話しやすい環境づくりにつながっています。

職員同士がミーティングなどの前にお互いの職員の素晴らしいところをメモにして交換し合う「褒める会」の実施や「ダイエットをする」など個人的な内容も含めた一年間の目標を公表する「今年の抱負」の掲示、またコロナ禍で実施できていませんが、研修会後には「職員と理事会とのお泊まり会」や「茶話会」の開催など、研修やミーティングなど職員が集まる機会を利用して、日常的に職員がお互いを知りコミュニケーションを深める機会に繋がっています。



【今年の保育目標!】



【お揃いのTシャツでお泊まり会】

地域との積極的な交流機会を

地域住民や地域企業との交流も大切にしています。近隣企業の職員がサンタさんとトナカイさんに変身してクリスマス会に来てくれました!また、コロナ禍で交流が難しい今年は、園児からお手紙で年始のご挨拶。



【近隣企業に年始のご挨拶!】

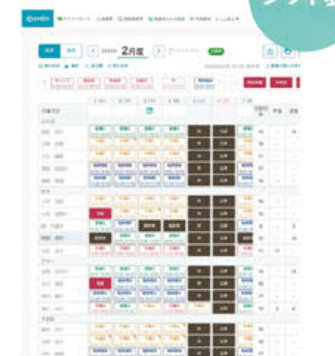


【サンタさんと一緒に】

多様な働き方の職員の採用により、 休暇の取りやすい体制へ

ゆとりある人材(財)の確保を行っています。そのため、子育てや介護など様々な家庭環境にある潜在保育士が、希望に沿った働き方で、生き生きと過ごすことができるように心がけています。働き方は可能な限り希望に沿うため、曜日や時間帯などのパターンが細かく、園として管理が大変な部分ではありますが、様々な働き方の人材採用を通じて、保育現場のフォローに入りやすい人員体制、休暇が取りやすい環境づくり、役割を明確にした事務担当人員の配置などを可能にしています。また多様な働き方ができることを示していることで、育休に入る職員などが復帰しやすい環境にもなっています。

「家族を大切にね」と園長が日頃から声をかけていることもあり、子どもの病気や家族の介護などで急に休みを取らなくてはならない時でも、休みを言い出しやすい環境づくりにつながっています。



ICTシステムの導入により事務時間の削減、 若手の成長の機会に

同園では現場職員の負担軽減のため、ICTシステムの導入に積極的に取り組んでいます。登降園管理や保護者連絡、連絡ノートや指導案、議事録等の作成、睡眠チェック、シフト作成など、勤怠管理や請求管理などの一部の管理を除く分野で活用しています。ICTシステム導入により、印刷コストの削減のほか、保護者対応以外の部分での残業時間が大幅に削減されました。また、以前から園長が望んでいたノンコンタクトタイムの導入に踏み切ることができました。ノンコンタクトタイムを取るようにリーダーからの声掛けもあり「今からノンコンタクトに入ります」の声が日常的になっています。

ICTシステムの導入にあたっては、現場の若手職員が中心になって導入を進めました。ICTシステムの導入は、日常業務を見直し、社内の制度ややり方を変える大きなことですが、トップが信じて任せることで、若手職員がやりがいを感じて一所懸命取り組んだ結果、職員自身の成長につながったことも大きな成果となっています。

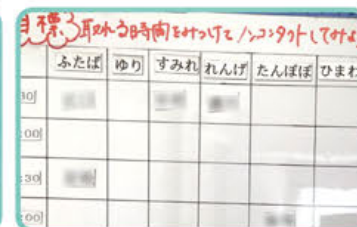
【午睡タイムの確認】



【指導案等の作成】



【ノンコンタクトタイムシフト】



伊勢市立 五峰保育園

GOHOUHOIKUEN

伊勢市二見町山田原446-1

園長 岸上 由美

定員数 100名

職員数 28名(保育士 24名)

早目早目の計画の作成と作業分担で 残業削減、有給取得に

発表会や運動会などの行事は年間計画をもとに見通しを持って早目に企画し、大道具づくりなどの作業を早い段階で分担制にして取り掛かれるようにしています。早期に自分の担当作業が分かることで、毎日の午睡時間などの隙間時間でも工夫して取組むことができ、残業時間の削減のほか、有休取得をしやすい環境にもつなげています。また、主任が各職員の有給休暇の日数を把握して取得を促したり、園長や主任が率先して取得したりすることで、現場の職員が有休を取りやすい環境づくりに努めています。



【みんなで節分会】



コミュニケーションは 顔をあわせて積極的に

「本園の園長としては1年目のため、コミュニケーションを円滑に行うことを何よりも心掛けています」と岸上園長。毎朝クラスに顔を出して園児に声をかけ、保護者ともできるだけ顔をあわせて、知ることに努めています。職員に対しても同様に、朝から笑顔で始められるように声掛けを欠かさず、体調管理や悩みなどに気づけるようにして、相談しやすい環境づくりに努めています。



【朝は顔を合わせて挨拶!】

定期的な研修機会の設定を

月に1回の職員会議の後に園内研修を設定し、できる限り多くの職員が参加し、定期的に研修を受けることができるようにしています。研修内容は、津波などの防災対策や感染症対策、特別な支援が必要な子どもへの対応など、保育環境の改善に向けたテーマを職員で出し合って検討しています。園外の研修についても自治体や団体などが実施する研修のほか、所(園)長会・主任会でも保育専門の研修についての情報交換が行われることから、職員に共有して可能な限り参加を促しています。また参加者は職員会議後の勉強会で研修内容を共有し、職員の資質向上につなげています。

【多様なテーマで研修会】



市によるICTシステム導入で業務負担軽減に

昨年から伊勢市が市内の公立保育所・認定こども園を対象にICTシステムを導入、登降園管理により時間の把握や欠席時の連絡が可能になったことで、朝の繁忙時の電話対応や、集計作業の負担が軽減されています。また、保育日誌などの書類作成においても履歴がみれることで、修正作業がスムーズに行えるようになりました。朝礼に出席できなかった職員にも職員連絡機能を利用することで、情報共有が可能になったり、クラスだよりや給食だよりなど保護者向けのお便りにもICTシステムを活用したりしています。一方で、システム導入から日も浅く、職員のなかでもシステムへの慣れやレベル感の差、システムの改善が必要となる場所もあるのが現状です。市では各園の職員の中から若手を中心にICT担当を決め、各園内で取りまとめた意見を市の所(園)長会議にあげて使い方や改善に向けた意見交換を行い改善に努めており、園としても業務改善につなげていきたいと考えています。

【ICTを活用したおたより配信】



【登降園管理】



【保育日誌の作成も効率的に】



地域の方との交流も盛ん!

地域の方との交流も盛んです。写真は民生委員の方によるお茶会の様子。また、卒園生である1年生のお兄さん、お姉さんが訪問する機会もあります。卒園生の元気な姿をみることで、職員も元気をもらっています!



【初めてのお抹茶の味】

社会福祉法人むげんのかのうせい えがお志摩保育園

EGAOSHIMAHOIKUEN

志摩市阿児町甲賀1531番地3

園長 竹内 邦枝

定員数 90名

職員数 26名(保育士 22名)



合言葉はみんなで1つ。 得意・不得意を カバーし支える園づくり

「保育士は保育のプロ、それでも個性があり、得意、不得意があります。得意なことを活かし、不得意なことを互いにカバーしながら、プロとしてより良い保育を提供できる保育園づくりを目指しています」と竹内園長。

クラスごとに担任、副担任を設置していますが、他のクラスが行事などで忙しい時には、互いに助け合えるように、朝礼時に「明日のイベントの飾りつけ作業を手伝ってほしいです」、「今日は午後からお手伝いできる時間があります」と状況を共有しあいます。少し余裕ができた職員から「今の時間、何かお手伝いできることありますか」と声をかけあい、経験年数の浅い職員も「助けてほしい」と言いやすい環境づくりを行っています。また、自治体での研修のほか、法人内での研修や、施設内での研修など様々な機会を活用しています。園長自身も自ら様々な学びの機会を得てきたことから、職員にもそのような機会を提供したいと考えており、得意なことを伸ばしながら輝ける居場所をつくれるように心掛けています。



【えがおのなかま】

会議時間は午睡タイムを利用、 積み重ねて残業時間の削減へ

コロナ禍で、職員が密になる時間を少なくするため、会議を二部制にしたり、報告内容は書面配布して話し合うべきことを明確化したりするなどしています。これまで会議は皆が集まりやすい夕方に開催し残業につながることもありましたが、午睡タイムの見守りをパート保育士にまかせて職員会議を実施、限られた時間のなかで会議を行うことが習慣化し、会議運営の効率化、時間短縮につながっています。



【効率よい会議運営】

地域の力と知恵を保育園の力に。 地域に根差した保育園づくり

地域に根付いた保育園を目指し、開園時から積極的に自治会や老人会との連携を図り、「子は地域の宝」と言ってくれる地域の方に支えられています。

今はコロナ禍で中止している行事も多いですが、地域の伝承を保育のなかに取り入れることを意識しています。昔から伝わる甲賀地区の盆踊りは、地区のおばあちゃんを先生に代々受け継ぎ、園の夕涼み会で踊ったり、地区の有志の方と一緒に餅つきでは郷土料理である青のり味のお餅づくりを教えてもらったりしています。また、食育の一環として、給食のお米は地区の農家さんからお米を購入したり、園内で野菜や芋を育てたりしています。草取りや獣害対策、間引き、芋ほり前の準備などの世話を地区の有志の方が積極的に行ってくれているため、職員の負担軽減にもつながっています。



【地元の方を先生に、えがお畑で苗植え(左)、餅つき(中)、風揚げ(右)】

ホワイトボードと朝礼メモで 負担なく情報伝達

ホワイトボードを活用した情報共有を行っていましたが、翌日に書き換えるため、長期休暇や短時間勤務の職員に共有されないケースが散見されたため、朝礼の内容を簡単にメモして「朝礼伝達事項」としてファイリングしています。手書きの記録メモで負担感なく続けることができるようにしています。



【朝礼伝達ファイル】

誕生日には嬉しいプレゼント



【生まれてきてくれてありがとう】

園児のお誕生会には、誕生月の園児の家族にも参加してもらい、園児から保護者に「ありがとう」の気持ちを伝える機会にしています。また、職員の誕生日には、「家族で食べて」の気持ちを込めて法人からホールケーキがプレゼント！

園児、職員、地域の方々、ここで出会った人すべてが仲間であり、大きな家族！の理念を大切にしています。